

巻頭言

叢書「コンフリクトの人文学」の刊行に寄せて —— 小泉潤二・栗本英世 —— III

はじめに

なにが問われているのか —— 富山一郎 —— V

第I部 自然化されるコンフリクト

第1章

豚と発動機

開発の中の信用と信頼 —— 中川 敏 —— 003

1. プロローグ——発動機の集会
2. 開発
3. スバドリ村

第2章

自己をめぐるコンフリクト論再考

モノ／者としての地蔵の身体性を手がかりに —— 藤原久仁子 —— 017

はじめに

1. 日本文化のなかのお地蔵さま
2. 願行寺のお地蔵さま
3. 地蔵のアイデンティティ

おわりに

第II部 国家と資本の問題

第3章

新国家建設とコンフリクト

南スーダン共和国のゆくえ —— 栗本英世 —— 035

はじめに——南スーダン共和国の誕生

1. コンフリクトからの解放——本章の目的
2. 新国家を設計するのはだれか
3. 国家と社会の乖離とローカルな政体の自律性

おわりに

第4章

日独交流における社会政策の方法論

福田徳三とルーヨ・プレントナーノ(1898-1930)

ヴォルフガング・シュヴェントカー — 071

1. 産業の発展と経済理論——マンチェスター資本主義か、それとも「ドイツ歴史学派」か
2. 帝政ドイツにおける学生としての福田徳三
3. ルーヨ・プレントナーノに宛てた福田徳三の書簡
4. 1930年代における福田徳三とルーヨ・プレントナーノの関係

第5章

民族主義とルンペン・プロレタリアート

沖縄における脱植民地化と冷戦の間 ————— 富山一郎 — 089

はじめに

1. 主権、あるいは民族という問題
2. 「飢えたる者」と「地に呪われたる者」
3. 奄美という問い
4. 流亡者たち
5. 最後に——1952年

第Ⅲ部 日常への想像力

第6章

<遅れ>を書く ————— 中川 理 — 125

はじめに

1. <遅れ>の思考
 2. <遅れ>としてのハビトゥス
 3. ベアルン農民の事例から
- おわりに

第7章

『Cuba Sentimental』制作ノート

人類学者がカメラを持ち、編集を終えるまで ————— 田沼幸子 — 143

はじめに

1. 概要——科学研究費申請時に描いた未来図
2. 対象を真似る人類学者——映画が日常にある生活
3. 記述と物語——日常を切り取るエスノグラフィと映像
4. 模索——プロジェクトとしての活動
5. 指導——未来図の具現化
6. 上映——人類学的経験の共有

第8章

共に考えることについて

再編／増殖する大学の可能性 ————— 渡邊 太 — 171

はじめに

1. 大学の再編
 2. 大学のオルタナティブ
 3. 大学の再発明
- おわりに

執筆者紹介 ————— 195